

137年の歴史に幕を閉じる…

# 福岡西小学校

今年の3月で惜しまれつつ閉校となった福岡西小学校。美しい自然豊かな土地でのびやかに過ごしてきた多くの子どもたち。思い出は在校生、卒業生ばかりでなく、学校とともに歩んできた地域の人たちの胸にも深く刻み込まれています。

地域に愛されながら

福岡西小学校は、137年前の明治7年10月、当時の栃木県山田郡塩原村の松源寺において大間々学校分校として開校しました。以来、数度の校名変更や校舎の移転を経ながら、昭和28年4月、福岡村立福岡小学校西分教場から独立開校して、福岡西小学校となりました。

それから59年の間に自然豊かな土地で地域の人たちに愛され支えられながら、1,349人の卒業生が学び舎から巣立っていきました。

閉校記念式典を挙行

3月25日に行われた閉校記念式典には、児童、保護者、地域の人たち、教職員、関係者など約300人が出席しました。

昔の写真をスクリーンに映し出し、同校の歴史を振り返った後、式典に出席した全児童が壇上に並び、運動会や校外学習などそれぞれの思い出を一言ずつ発表しました。

校旗を返納した高柳校長よりあいさつが述べられ137年の輝かしい歴史は、惜しまれながら幕を閉じました。



田んぼでのうれしそうな  
笑顔が忘れられない

提橋 延子さん  
(大間々町塩原・71歳)

夫と共に29年、夫が亡くなっ  
てから6年の計35年間、福西小  
の授業で行っていた米作りのお  
手伝いをさせてもらいました。  
始めた頃の子もたちは、もう  
立派な大人になっていて、その  
子どもたちが米作りを体験する  
ようになっていましたね。

皆さんからいただいた感想文  
や手紙は、私の大切な一生の宝  
物です。田植えや稲刈りをして  
いるときの皆さんのうれしそ  
うな顔を見るのがとても好きで、  
私もうれしかったですよ。

私の子どもや孫も福西小に



通ったので、皆さんのことも自  
分の子どもや孫のように思っ  
ています。

今は、毎日自宅まで聞こえて  
きた学校のチャイム音が聞けな  
いので「今日は日曜日？」と思  
うことも。学校の近くにある畑  
にいるときに「もう学校終わっ  
たの？」などいつも声を掛け  
合っていた子どもたちの姿がな  
いのは本当に寂しいですね。

思い出のたくさん詰まった校  
舎や田んぼは、何らかの形で生  
かされればと願っています。

皆さんが中学生、高校生、そ  
して大人に成長していく過程を  
見ているのが楽しみでした。い  
つまでも、福西小と米作りに取  
り組んだことを忘れないでくだ  
さいね。

## かわいい福西小の子どもたちへ

福西小では、地域の皆さんの協力の下、特色ある教育活動を行ってきました。その中で、長年にわたり関わってきた2人の方から、卒業生を含めた「子どもたち」へのメッセージを紹介します。

オオムラサキの住む  
美しい自然を守ってほしい

木村 八郎さん  
(大間々町塩沢・86歳)

小学1・2年生の時を福西小  
で過ごしました。この2年間は  
とても楽しくて、心に残ってい  
ますね。3年生からは黒保根の  
学校に通ったのですが、福西小  
での友達は、大人になってから  
も付き合いが続きました。

自宅の裏にある雑木山で国蝶  
のオオムラサキが見付かってか  
ら保護と飼育を行ってきた、約  
15年前からは、福西小の子ども  
たちにオオムラサキの生態や飼  
育法を伝えてきました。かわい  
い皆さんに会えるのは楽しみで  
したし、どれだけうれしかった



ことか。一緒にいると子どもの  
頃に返ったようでした。

福西小の閉校は、とても寂し  
いですが、心の中でいつまでも  
思い続けています。これからも  
皆さんに美しいオオムラサキと  
ふるさとの自然を守ってもらえ  
ればと願っています。



木村さん宅のオオムラサキハウス前

### 思い出の記録を記念誌に

地域の人たちが編さん委員会  
を立ち上げ、思い出が詰まった  
閉校記念誌を作成しました。

1部1,000円(送料別)で販  
売しています。

問い合わせ先 学校計画課学校  
計画係 ☎(76) 9624